

拝啓、毎回ほぼ同じ冒頭文で誠に申し訳ありませんでした。

今回は、その経緯^{いきさつ}について少し詳しくご説明申し上げます。

七年前、高齢の上に大病まで患った私は「天皇直訴」を大書した大型トレーラー広報車のハンドルを握っての上京が出来なくなってしまうしました。

それからなのです。弊社所轄の警察当局が私の健康状態をチェックするためと称して、対面での月例会を開始したのはです。

そうまでして私が急逝^{きゅうせい}したら困る人は、天皇以外には考えられないので、二十年以上もの長い長い付き合いの担当官に、その旨問^{ただ}い質し続けました。

しかしどうしても白状されないまま昨年三月、定年退職してしまわれたのです。ところがです。その後を受けた新任担当官の今度はその上司が、昨年四月の初回

から、また自分から「天皇陛下のご命令です」と明言されたのです。

私の方がびっくりして「エッ」「エッ」と聞き返したほど唐突にです。

それにそもそも、そんな上司自ら面談に来られること自体が異例でしたし、警察は歴^{れつき}とした政府機関であり、警察官は純然たる公務員です。

故に、誰が何と言おうと間違いなく「天皇陛下のご命令」なのです。

そこで私は、この明言を武器にして、勝負に打って出ることにしたのです。

ただただ破滅へと暴走し続ける「今だけ・金だけ・自分だけ」の愚劣極まりない人の世に、真実の一石を投じたいとの「虚仮^{こけ}の一念」です。

以上、全く同じ冒頭文を使い続けている理由をご説明申し上げます。悪しからずご容赦ください。そしてまた、どうぞご期待ください。